

平成 28 年度長野市健康増進・食育推進審議会（第 1 回）議事録

と き 平成 28 年 5 月 26 日

14 時～15 時 15 分

ところ 長野市ふれあい福祉センター
会議室

出席者：別紙

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 諮問
- 5 議事

(1) 報告事項

- ア 新・健康ながの 2 1 及び第二次長野市食育推進計画の最終評価の概要について

資料 1

意見 つぎのとおり（8 議事における意見等）

- イ 市民の健康状況等について 資料 2

意見 つぎのとおり（8 議事における意見等）

(2) 協議事項

- ア （仮称）ながの健やかプラン 2 1（第 3 次長野市健康増進計画・第 3 次長野市食育推進計画）策定の概要について 資料 3

意見 つぎのとおり（8 議事における意見等）

- イ （仮称）ながの健やかプラン 2 1 の枠組み（案）について 資料 4

意見 つぎのとおり（8 議事における意見等）

6 その他

- (1) 第 2 回長野市健康増進・食育推進審議会について

意見 なし

7 閉会

8 議事における意見等

資料1について

(委員) 事前質問

9 ページ 自殺予防ゲートキーパー、研修会の内容について

(事務局)

ゲートキーパーとは「いのちを守る門番」という意味で、自殺に気持ちが傾き、悩んでいる人が示す自殺のサインに気づき、声をかけ、話を聴いて、必要に応じて専門家へつなぎ、見守る人のこと。地域や職場、学校等あらゆる場面で、誰もがゲートキーパーになることができると考えている。

ゲートキーパー研修は、ゲートキーパーの役割や自殺との関連の高うつ病、また、悩んでいる人への声のかけ方や話の聴き方等について学んでもらう講座で、年1回保健所で開催している。なお、地域・職場出前講座等を活用して、民生児童委員や区長、会社員などを対象に研修を実施している。

(委員) 事前質問

14 ページ 朝食を取れるようにするための対策はどのようにしたら良いのか。具体的に聞きたい。

(事務局)

朝食を毎日食べることは、基本的な生活習慣を身につける観点からとても重要であるため、朝食欠食を減少させる取組を継続していく。

具体的には、保健センターの乳幼児健診などにおいて、生活リズムを整え、早寝・早起きをして朝食をきちんと食べるよう啓発に取り組む。保育所・幼稚園、学校において「給食だより」や「保健だより」を通じて生活リズムや朝食の重要性について啓発に取り組む。

小学校1年生を対象に、「早寝、早起き、早ご飯」国民運動リーフレットを配布している。

(委員) 事前質問

20 ページ 食の安全・安心に関する研修会の内容について

(事務局)

食品の安全性の確保は、食生活における基本的な事項であり、食品等業者が食品の安全性の確保に万全を期すとともに、消費者においても、食品の安全性をはじめとする食に関する知識と理解を深め正しく選択していくことが必要。

これらの知識の普及のために食品衛生講習会や出前講座などを行っている。食品衛生講習会では、食品等業者を対象に食中毒予防、異物混入防止対策、自主衛生管理などについて、出前講座では、市民を対象に食中毒予防や食品表示の見方などの研修会を開催している。

(会長)

9ページの質問の中で、年1回保健所でゲートキーパー研修会が行われているということだが、対象者は誰なのか、どういった人が参加しているのか。

(事務局)

市民の方を対象に広く募集をかけている。民生委員の方を始め、いろいろな場所にチラシを配布して希望者を募っている。

(会長)

参加するのはある程度こういったことに関わる人が中心になるのか、それとも一般市民か。

(事務局)

民生委員の方も一般市民の方も参加してもらっている。

(会長)

20ページの食品衛生講習会の方は一般市民というよりは食品を扱う方が対象ということでしょうか。

(事務局)

はい。

(会長)

出前講座は希望すればどなたでもいいということでしょうか。

(事務局)

はい

(委員)

朝食を取らない人の割合が増えているということで、啓発のおたよりを出しているということだが、栄養士としても今までずっとしてきていることであり、効果がないということはこれより一歩つつこんでやってほしい。子どもにいくら言っても親が作ってくれないと食べられない、その親の世代20代から30代前半の4分の1の男性が食べてない、この点をどう考えているのか。

(事務局)

若い男性の4分の1以上が食べてないところはこちらも気になっている。子どもが食べないのは親が食べないからだろうというところでは、ちょうど子どもの欠食と20代30代男性の欠食とが重なり合うと考えている。働き盛りの男性に向けて職場での出前講座も実施しているが、夜遅くまで働いて朝ぎりぎりまで寝るという生活リズムの中では難しいところ。なんとかしていかなければならないが、これぞというものを皆さんと考えていきたい。

資料2について

(委員) 事前質問

長野市国保特定健診の結果の所見について、ヘモグロビンA1c、LDLコレステロールの値が高いが原因は何か。

(事務局)

新・健康ながの21の中間評価、最終評価のなかでも長野市は全国あるいは県の中でも糖尿病予備群であるHbA1cが5.6以上の人の割合が高いことが課題となっている。市としても何が原因なのかを検討するために平成26年から糖尿病の専門医の協力を得て、糖尿病対策検討会を開催している。HbA1cは生活習慣が大きく関わることで、国保の検診項目の間診項目等を比較すると、例えば1日1時間以上の身体活動をしなない人の割合が県の平均よりも高かったり、1日30分以上の運動習慣がない人の割合も県の平均よりも高かったりしていることから、運動をしなない人が多い、また就寝前の夕食を週3回以上食べるという人の割合が同規模の市町村と比べて高いというような食生活、生活リズム、運動の状況が確認できた。これが長野市が高いという因果関係とは言えないが、検討会の中では運動を推進していく必要があるのではないかと検討しているところである。

(委員)

自分の地区は市内でもHbA1c高いという指摘が地域の学習会であったので気になっていた。おおよそのことはわかったと思う。引き続き原因を突き止めて報告してほしい。

(会長)

現状の市民の健康状態についてこれからの計画にも反映していかなければいけないと思う。

資料3について

(委員)

(仮称)ながの健やかプラン21では、健康増進と食育推進は一体化し、今後母子保健計画と市町村自殺対策計画は別になるのか。

(事務局)

健康増進計画の中に母子保健計画と市町村自殺対策計画を含めて考えていくということである。資料4の方がわかりやすいかもしれないが、母子保健計画と市町村自殺対策計画を別に作るということではない。

(委員)

資料4の説明が終わったらまた質問したい。

(会長)

名称はここで決定したほうがいいのか。

(事務局)

今日というわけではないが、名称についても意見をいただきたい。この計画の基本理念、キャッチフレーズを考えていく中で、愛称的な親しみやすい名称にしたいと考えている。

資料4について

(委員)

こういった計画は非常に良い。全体的に県の同種計画の立案は遅れているので長野市が率先し、リードしてもらいたい。

飲酒の項が新しく入ったが、計画の位置づけのところにアルコール健康障害対策基本法ができたということを明記して、それに基づいて書いたほうが良い。県ごとのアルコール健康障害対策基本計画は鳥取県が最初に作ったのだが、指定都市でなく中核市で作っても何の問題もないのでその内容を入れ込みながら飲酒の部分を書いてほしい。

いつも言っているが、長野市は非常に良いことをやっているのに宣伝があまり上手ではなく、大したことをしていないのに宣伝をうまくしている市も県内にある。糖尿病のHbA1cの問題も実際に糖尿病の患者がいて、その人たちの値が入ってくると全体が高くなると思うがどうとるかは難しい。市でも糖尿病重症化予防プログラムのようなものを行っているようだが、これは全国的にもとても先進的なものであり、生活習慣病、糖尿病重症化防止ということになるのだからプランに入れ込んでもらおうと全国にリードした健康づくりプランになると思う。

自殺対策の計画についてだが、4月1日から自殺対策基本法が改正され、知事も率先して考えられているようだ。県から市町村ごとに自殺対策を作るようにとトップセミナーが開かれると思う。例えばうちでは4月1日付けで自殺予防情報センターを自殺対策推進センターに名前を変えて、今までは情報の提供で統計等を出していたが、市町村ごとの自殺対策の計画を一緒に考えていくという方策を打ち出していきたい。

母子保健についてだが、女性のライフステージの中の妊娠、出産、子育てといったものを別プランにしておいて母子保健とするということは長野市が『子育てに優しいまち長野市』というキャッチフレーズでいいと思う。そのような大まかなプランで統合して出していけばいいのではないかと思う。

(事務局)

アルコール関係については資料3の図1のところで位置づけが適当であるか検討をしていきたい。

宣伝が下手ということですが、重く受け止めている。キャッチフレーズを作っただけで言い続けることも必要かと考えている。PRをどうしていくかも今後検討していかなければならない。委員の皆さんからもいいアイデアがあれば教えていただきたい。

妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援というのは非常に大事であり、長野市ではながの版ネウボラと称して犀南保健センターと吉田保健センターに母子保健コーディネーターといった出産前後から子育て期を手厚く切れ目なく支援していくコーディネーターを配置している。フィンランドのネウボラを参考にしたものであり、2つの保健センターに専用のホットラインを引いてある。母子健康手帳の交付時には保健師と面接をして状況を把握し、リスクのある人についてはその人に合ったプランを作成したり、その家庭に合った情

報をきめ細かく提供したり、こども未来部と連携をしたりしている。いろいろ攻めながら、課題も出てきているのでフィードバックして理想的な形に近づけていきたい。そういったものをこの計画にうまく反映し推進できればと考えている。

(会長)

名称についてだが、健やかという日本語はとても美しく適切だと思う。ただどうしたらいいのかがわからないのでキャッチフレーズのところで市民が行動するときの具体性を持った言葉が入ればいいと思う。宣伝が下手という指摘があったので外に向かっても市民に向かっても分かりやすい具体的な行動ができるキャッチフレーズがいいと思う。スローガンのような目標を定めてといった堅苦しいものにはしたくない。